



2021年度 福知山公立大学

北近畿地域連携機構

年次報告書

北近畿地域連携機構長ごあいさつ

北近畿地域連携機構長（兼 福知山公立大学長）

井口 和起



福知山公立大学は、「市民の大学、地域のための大学、世界とともに歩む大学」を基本理念に掲げて、2016年4月に開学しました。

以来、この6年間「地域協働型教育研究」の推進に努め、そのための附属機関として開学当初は北近畿地域連携センター、市民学習・キャリア支援センター、まちかどキャンパスを設置しました。昨年度からはこれらを再編成して「北近畿地域連携機構」にまとめ、新たに研究部・市民学習部・まちかどキャンパス部をこの機構のもとに置きました。地域との協働を深化させ、地域課題の解決に資する教育研究のいっそうの推進に努め、その具体的な成果を地域社会に還元するための組織的な取り組みの強化を目指した改組でした。

本報告書はその2年目の活動の報告です。

昨年度と同様、いわゆるコロナ禍における活動でしたので、地域社会との協働も思いどおりには進め難かったのですが、他方で、遠隔による協働のあり方を探るという新たな経験も少しばかりは蓄積しました。

他方、本年度は7月以降機構長を学長が兼ねることになり、組織的活動が些か弱体化したことは否めませんでした。ことに開学2年目に組織された「北近畿地域連携会議」の活動が停滞したことは、事務局を引き受けていた本機構の責任でもあり、誠に申し訳なくこの場をお借りしてお詫び申し上げます。

これらを含め、本報告書に表れている本学の北近畿地域を舞台にした地域連携と地域協働型教育研究について忌憚のないご批判を頂戴いたしたく存じます。

大学は6年間を一つの「期」として目標と計画を策定することを法的に義務づけられています。本年度は開学からの第1期の終了年度にあたり、来年度は新しい2期目を迎えることになります。本機構の活動も新たな展開を要請されています。そのためにも本報告書を手にされた方々からの厳しいご指摘をいただくことが期待されています。よろしくお願いいたします。



目次

研究部

- 1. 地域研究プロジェクト..... 1
- 2. NEXT産業創造塾..... 3
- 3. 研究費獲得実績..... 5

市民学習部

- 4. 北近畿創生フューチャーセッション..... 11
- 5. 福知山市若者まちづくり未来ラボ事業..... 13
- 6. 分野別公開講座..... 17
- 7. 高大連携研究会..... 21
- 8. 公募型市民学習支援事業..... 23
- 9. 井口学長塾..... 25
- 10. 田舎力甲子園..... 27

まちかどキャンパス部

- 11. まちかどギャラリー事業..... 29
- 12. まちライブラリー事業..... 31
- 13. まちびとゼミ×ふくちゼミ事業..... 33

■ 研究部

2021年度地域研究プロジェクト (北近畿地域連携機構研究助成)

【趣旨】

北近畿地域連携機構研究助成「地域研究プロジェクト」は、本学教員の地域連携型教育研究活動を促進し、地域・企業が抱えるニーズ、課題等に対して大学が持つ「知」を活用する機会を創出することを目的とします。

【詳細内容】

「指定課題：北近畿地域の循環型社会の形成に関する研究」と「自由課題」で学内教員を対象に公募・審査を行い、以下の4件を採択しました。

■ 指定課題

(敬称略、順不同)

	申請者	共同研究者	研究課題名	決定額
1	岡本悦司	神谷達夫	北近畿データウェアハウスの構築・公開と地域分析への活用に関する研究	400,000 円
2	佐藤 恵	芦田信之	ジオパーク活動が学童の地域への認識に与える影響―北近畿地方を例として―	353,000 円
3	三好ゆう	星 雅文 金 広文	北近畿における市町村産業連関表の作成と地域間産業連関表の開発可能性についての考察	432,000 円

■ 自由課題

(敬称略)

	申請者	共同研究者	研究課題名	決定額
1	神谷達夫	山田 篤 岡本悦司 杉本 充	機械学習型人工知能を用いた農作物の選別システムの構築	250,000 円

〈2020 年度採択分地域研究プロジェクト成果報告会〉

福知山公立大学 2 号館 1 階 Co-lab. スペースにおいて、2020 年度に実施した 6 件の地域研究プロジェクトの成果報告会を開催しました。

「参加者と研究者との交流の場を創出する」ことに主軸を置き、ポスターセッション形式による発表としました。

●日時 2021 年 8 月 10 日 (火) 18:00 ~ 20:00

●場所 福知山公立大学 2 号館 1 階 Co-lab. スペース

■研究内容

(敬称略、順不同)

研究代表者	共同研究者	研究題名
岡本悦司	神谷達夫	新駅・新愛称による福知山線活性化に関する研究
亀井省吾	渋谷節子 板倉宏昭	地域同族企業の後継者選定プロセスと SEW の拡張性
神谷達夫	山田 篤	機械学習型人工知能を用いた農作物の選別システムの構築
鄭 年皓	三好ゆう	大河ドラマ「麒麟がくる」の放映が福知山および北近畿地域における地域活性化に与える影響に関する研究
川島典子	岡本悦司	北近畿の高合計特殊出生率の要因分析に関する研究 —ソーシャル・キャピタルの下位概念に着目して—
張 明軍	渋谷節子	外国人居住者の基本的欲求と異文化感受性との関係性に関する研究



NEXT産業創造塾

第1回 若手起業家による挑戦

■日 時 2021年4月29日(木/祝) 14:00～16:00

■場 所 オンライン

■参加者 61人

■講 師 橋本 舜 氏(ベースフード株式会社 代表)
飯淵 弘成 氏(GOプランニング 代表)

■コーディネーター

亀井 省吾(福知山公立大学地域経営学部 教授 / 北近畿地域連携機構 研究部長)



第2回 地域の事業承継

■日 時 2022年2月5日(土) 10:00～12:00

■場 所 オンライン

■参加者 44人

■講 師 塩見 和之 氏(福知山商工会議所 会頭)
浅井 克俊 氏(ココホレジャパン株式会社 社長)

■パネリスト

宮垣 健生 氏(但馬信用金庫 常務理事 / 総合企画部長)

■コーディネーター

亀井 省吾(福知山公立大学地域経営学部 教授 / 北近畿地域連携機構 研究部長)



【概要】

本事業は、福知山市から「NEXTふくちやま産業創造事業」の委託を受け、福知山市域ひいては北近畿地域における産業振興を図るべく、起業に挑戦する機運・風土を醸成することを目的として実施しております。

今年度は、①若手起業家による挑戦、②地域の事業承継をテーマに2回の講演会を開催し、起業のノウハウや心構え等を学びました。

【詳細】

第1回

講師① 橋本 舜 氏「スタートアップ事例としてのベースフードのご紹介」

ベースフードは、「主食をイノベーションして、健康をあたりまえに」をミッションとして掲げ、栄養バランスの良い主食を開発・販売されています。開発・販売の事例を通して、スタートアップに対する意識や心構えなどをご紹介いただきました。



講師② 飯渕弘成 氏「『共創』型開発でお肌と心を守るスキンケアブランドへ」

GOプランニングが立ち上げた Natura Check (ナチュラチェック) ブランドでは、スキンケアに悩み、答えを見つけられていないお客様に対して、徹底したコミュニケーションをとりながら製品の販売を行うことを特徴とされています。

その中から得られるお客様の本音や希望の声から、『共創』型開発につなげている事例と共に、一つのスキンケア事業の現状をご紹介します。



第2回

講師① 塩見 和之 氏「福知山市における事業承継の現状と商工会議所の取り組み」

福知山商工会議所のスローガンは「継続と変革」。商工業の活性化を図り、住みよく夢のあるまちにしたいと考えたとき、中小企業の事業継続が優先課題です。事業所が減少傾向にある現状では、環境に適応した変革が必要で、そのための事業承継サポートに全力を注いでいることをご紹介します。

明治・大正時代の事業

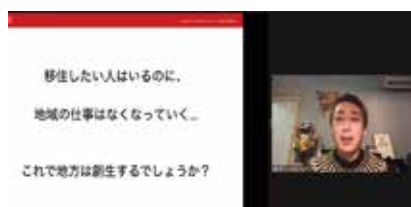


ベンチャー型事業承継の概念



講師② 浅井 克俊 氏「“継ぎたい日本が見つかる”ニホン継業バンクの取り組み」

M&Aでは承継機会が得られない、小さな仕事の本質的な価値を伝え、継ぎ手を探す「事業承継版・空き家バンク＝継業バンク」。「継業支援を手数料ビジネス化しない」という独自の視点で、地域連携で後継者課題に取り組むソーシャル・ビジネス・モデルについて、実績を交えてご紹介いただきました。



■ 研究部

2021年度研究費獲得実績

■ 科学研究費助成事業

【研究代表者】

18 件 (17 人) (うち 2021 年度新規採択 4 件 (4 人))

合計 20,200,000 円 (直接経費配分額 11,870,000 円)

地域経営学部：9 件 (9 人)

	教員名	研究種目	研究期間	2021 直接経費 (配分額)	研究課題名
1	倉田良樹	基盤研究 (C) (一般)	2018～2021 (4年) 1年延長	(1,152,059 円) ※繰越額	現代日本における労働者の熟練衰退に関する知識社会学的研究
2	佐藤 恵	基盤研究 (C) (一般)	2019～2021 (3年)	1,000,000 円 (400,000 円)	DPC/PDPS で収集される傷病名のデータ品質と医学的品質の評価と改善
3	大谷 杏	若手研究	2019～2021 (3年)	400,000 円 (400,000 円)	フィンランドすべての住民に開かれた生涯学習機関の研究
4	神谷達夫	基盤研究 (C) (一般)	2020～2022 (3年)	200,000 円 (100,000 円)	観光者の動態把握におけるビッグデータ活用
5	渋谷節子	基盤研究 (C) (一般)	2020～2022 (3年)	800,000 円 (800,000 円)	ベトナムの経済発展から取り残された貧しい農民家族の社会経済的生活の研究
6	佐藤 充	若手研究	2020～2023 (4年)	200,000 円 (200,000 円)	観光地のスマート化とデータマネジメントに関する研究
7	張 明軍	若手研究	2020～2021 (2年)	1,300,000 円 (1,300,000 円)	農山漁村地域における住民の対外国人意識に関する研究
8	亀井省吾	基盤研究 (C) (一般)	2021～2023 (3年)	1,100,000 円 (770,000 円)	起業による地域創生のための人的ネットワーク構築に関する研究
9	加藤好雄	若手研究	2021～2023 (3年)	1,500,000 円 (1,500,000 円)	顧客行動の変化におけるアクティビティ・システムの構築に関する研究
合計額				6,500,000 円 (5,470,000 円)	

*配分額：研究代表者に配分される直接経費の額。研究分担者に配分する直接経費の額は含まない。

*合計額：「1 倉田良樹」の繰越額を除く額。

情報学部：9 件 (8 人)

	教員名	研究種目	研究期間	2021直接経費 (配分額)	研究課題名
1	松山江里	若手研究	2018～2021 (4年)	500,000 円 (500,000 円)	DeepLearning と多重解像度解析を融合した肺 CT の癌検出システムの開発
2	畠中利治	基盤研究 (C) (特設分野研究)	2018～2021 (4年) 1年延長	(997,982 円) ※繰越額	人工物システムの持続的運用のための自動シナリオ生成とそのシミュレーション
3	橋田光代	挑戦的研究 (萌芽)	2018～2021 (4年) 1年延長	(1,448,361 円) ※繰越額	ピアノ演奏におけるフレー징の意図伝達と個性表出に関する研究
4	衣川昌宏	若手研究	2018～2021 (4年) 1年延長	(196,364 円) ※繰越額	RF ハードウェアトロイの脅威分析と対策技術の開拓
5	西田豊明	基盤研究 (A) (一般)	2019～2021 (3年)	10,100,000 円 (2,800,000 円)	会話基盤更新プロセスの可視化と異文化コミュニケーション学習支援での検証
6	畠中利治	基盤研究 (C) (一般)	2020～2023 (4年)	600,000 円 (600,000 円)	確率的多点探索における有望領域の絞り込み過程の数値モデリング
7	渡邊扇之介	若手研究	2020～2023 (4年)	700,000 円 (700,000 円)	Max-plus 代数における量子ウォークモデルの構築とその応用
8	眞鍋雄貴	基盤研究 (C) (一般)	2021～2023 (3年)	1,200,000 円 (1,200,000 円)	プログラミング初学者のための学習すべき要素の推薦プログラム
9	前田一貴	若手研究	2021～2023 (3年)	600,000 円 (600,000 円)	双直交多項式解をもつ離散可積分系系列の研究
合計額				13,700,000 円 (6,400,000 円)	

*配分額：研究代表者に配分される直接経費の額。研究分担者に配分する直接経費の額は含まない。

*合計額：「2 畠中利治、3 橋田光代、4 衣川昌宏」の繰越額を除く額。

【研究分担者】

21 件 (14 人) 合計 4,770,000 円 (直接経費配分額)

地域経営学部：11 件 (7 人)

	教員名	研究種目	研究期間	2021直接経費	研究課題名	研究代表者の所属機関
1	中尾誠二	基盤研究 (C) (一般)	2017～2021 (5年) 2年延長	(191,705 円) ※繰越額	ボランティア型農的体験活動の現地コーディネーター機能と政策的推進方策に関する研究	東京農業大学

2	杉岡秀紀	基盤研究 (B) (一般)	2019～2023 (5年)	70,000 円	公共図書館の多様な活動を評価する統合的指標の開発	同志社大学
3	杉岡秀紀	基盤研究 (C) (一般)	2019～2022 (4年)	100,000 円	「わかる」と「できる」が拡大し、キャリアが展望できる「チーム探究」に関する研究	京都橘大学
4	杉岡秀紀	基盤研究 (C) (一般)	2019～2021 (3年)	70,000 円	人口減少社会における子ども・若者の包括的支援と地域再生に向けた公私連携・協働	京都府立大学
5	井上直樹	国際共同 研究強化 (B)	2019～2023 (5年)	100,000 円	英国政府の公監査政策と公検査政策の成果と課題—わが国自治体の財政民主主義への示唆—	関西学院大学
6	佐藤 充	基盤研究 (C) (一般)	2020～2022 (3年)	50,000 円	観光者の動態把握におけるビッグデータ活用	福知山 公立大学 (神谷達夫)
7	林 亜紀	基盤研究 (C) (一般)	2019～2021 (3年)	50,000 円	DPC/PDPS で収集される傷病名のデータ品質と医学的品質の評価と改善	福知山 公立大学 (佐藤 恵)
8	渋谷節子	基盤研究 (C) (一般)	2021～2023 (3年)	110,000 円	起業による地域創生のための人的ネットワーク構築に関する研究	福知山 公立大学 (亀井省吾)
9	軍司聖詞	基盤研究 (B) (一般)	2018～2021 (4年) 1年延長	20,000 円	労働力編成における外国人の役割と農業構造の変動—国内農業地域と韓台米英との比較—	早稲田大学
10	軍司聖詞	基盤研究 (B) (一般)	2021～2023 (3年)	400,000 円	コロナ後の国際労働力移動と日本農業の受入競争力	北海学園大学
11	軍司聖詞	基盤研究 (C) (一般)	2021～2023 (3年)	200,000 円	農業参入企業の農業生産力構造の解明と地域農業構造再編の可能性の検証	岡山大学
合計額				1,170,000 円		

* 合計額：「1 中尾誠二」の繰越額を除く。

情報学部：10件（7人）

	教員名	研究種目	研究期間	2021直接経費	研究課題名	研究代表者の所属機関
1	黄 宏軒	基盤研究 (A) (一般)	2019～2021 (3年)	1,000,000 円	会話基盤更新プロセスの可視化と異文化コミュニケーション学習支援での検証	福知山 公立大学 (西田豊明)
2	黄 宏軒	基盤研究 (C) (一般)	2019～2021 (3年)	200,000 円	ユーザ誘引のための複数仮想エージェントビヘイビアによる集団状況生成モデル	名古屋 大学
3	畠中利治	基盤研究 (C) (一般)	2019～2021 (3年)	300,000 円	数学 IR 高度化に向けた学びのマイクロ・マクロデータの統合的なモデル化手法の開発	東京都立 大学
4	橋田光代	挑戦的研究 (萌芽)	2019～2021 (3年) 1年延長	(581,440 円) ※繰越額	ピアニストが演奏表現にこめた感動のデザインの定量的分析	関西学院 大学
5	渡邊扇之介	基盤研究 (C) (一般)	2019～2022 (4年)	100,000 円	Max-plus 代数上の線形計算アルゴリズムの開発とその応用	芝浦工業 大学
6	眞鍋雄貴	基盤研究 (A) (一般)	2018～2023 (6年)	200,000 円	オープンソースソフトウェアのリスクや健全性診断のためのエコシステム分析法の開発	大阪大学
7	田中克己	基盤研究 (B) (一般)	2021～2024 (4年)	400,000 円	機械学習ベースの情報アクセスシステムにおける精査可能性に関する研究	兵庫県立 大学
8	池野英利	基盤研究 (B) (一般)	2021～2023 (3年)	800,000 円	地中レーダを用いた樹木根系の最大深さと構造の非破壊推定手法の提案	名古屋 大学
9	池野英利	基盤研究 (B) (一般)	2021～2023 (3年)	500,000 円	カシノナガキクイムシの寄主選択におけるエラー回避機構の解明と防除への応用	京都大学
10	渡邊扇之介	基盤研究 (C) (一般)	2021～2023 (3年)	100,000 円	3 状態 3 近傍 CA のファジー化とダイナミックス	同志社 大学
合計額				3,600,000 円		

*合計額：「4 橋田光代」の繰越額を除く。

■厚生労働行政推進調査事業費補助金

1 件 (1 人) 合計 600,000 円 (研究期間総額)

	教員名	外部資金名称	研究期間 (予定)	助成金額 (2021 配分額)	研究課題名
1	横山泰昭 (研究分担者)	厚生労働行政 推進調査事業 費補助金	2021 (1 年)	600,000 円 (600,000 円)	新型コロナウイルス感染症の影響 下における被災者の情報収集・支 援システムの自治体における運用 に向けた実証研究
合計額				600,000 円 (600,000 円)	

*新型コロナウイルス感染症の対応等により研究費が不要になったため全額返還。ただし、研究は継続中。

■民間研究助成

2 件 (2 人) 合計 6,500,000 円 (研究期間総額)

	教員名	外部資金名称	研究期間 (予定)	助成金額 (2021 配分額)	研究課題名
1	河合宏紀 (研究代表者)	電気通信普及 財団研究調査 助成	2021~2023 (3 年)	4,000,000 円 (1,400,000 円)	絹織物の 3D アニメーションデジ タルアーカイブと感性検索システム の開発
2	衣川昌宏 (研究代表者)	テレコム先端技術 研究支援センター SCAT 研究費助成	2021~2023 (3 年)	2,500,000 円 (1,200,000 円)	マルハードウェアの挿入を困難にす る電磁フィンガープリント技術の開 拓
合計額				6,500,000 円 (2,600,000 円)	

■受託研究

5 件 (5 人) 合計 17,476,455 円 (研究期間総額)

	教員名	委託機関	研究期間	直接経費 (2021 配分額)	研究課題名
1	川島典子	独立行政法人日本学術 振興会「課題設定による 先進的人文学・社会科学 研究推進事業」領域開拓 プログラム	2020~2022 (2.5 年)	10,650,000 円 (4,050,000 円)	AI が介護保険行政を代行する際の ルールに関する研究—地域経営と SC の視座から—
2	佐藤 充	伊根町	2021 年 (1 年)	1,114,000 円 (1,114,000 円)	伊根町地域経済循環分析事業
3	神谷達夫	福知山市内 企業	2021 年 (1 年)	100,000 円 (100,000 円)	解砕ホッパ自動化の研究
4	畠中利治	福知山市	2021 年 (1 年)	4,545,455 円 (4,545,455 円)	ラーニングイノベーション・プロジェ クト監修業務
5	倉本 到	福知山市	2021 年 (1 年)	1,067,000 円 (1,067,000 円)	体験型コンテンツ製作におけるソ フトウェア開発及び監修等業務
合計額				17,476,455 円 (10,876,455 円)	

* 1: 研究期間は 2020 年 10 月~2023 年 3 月の 2 年 6 ヶ月

■受託事業

6 件 合計 13,409,400 円 (事業期間総額)

	教員名	委託機関	事業期間	直接経費 (2021配分額)	事業課題名
1	亀井省吾 山本吉伸	福知山市	2021年	7,539,400 円 (7,539,400 円)	NEXT ふくちやま産業創造事業運営業務
2	西田豊明 他 5 人	福知山市	2021年	1,000,000 円 (1,000,000 円)	福知山市シニアワークカレッジ運営事業支援業務
3	杉岡秀紀 藤井叙人	福知山市	2021年	1,090,000 円 (1,090,000 円)	福知山市若者まちづくり未来ラボ事業運営業務
4	山本吉伸	福知山市	2021年	1,200,000 円 (1,200,000 円)	スマートシティふくちやま生涯学習市民講座「スマホ・タブレット活用初心者講座」実施業務
5	畠中利治	舞鶴市	2021年	2,280,000 円 (2,280,000 円)	多様な広域連携促進事業に関する人材育成等業務
6	佐藤 充	京都府 (人・まち・キャンパス連携支援事業)	2021年	300,000 円 (300,000 円)	デジタル化時代の「次世代型地域づくり」を担う人材育成のための研究教育拠点の形成
合計額				13,409,400 円 (13,409,400 円)	

* 3は、北近畿地域連携機構市民学習部において受託

■共同研究

7 件 合計 2,716,640 円 (研究期間総額)

	教員名	共同研究機関	研究期間	直接経費 (2021配分額)	研究課題名
1	佐藤 充	一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社伊根地域本部 (伊根町観光協会)	2021年	135,000 円 (135,000 円)	伊根町コミュニティサイクルの利用動向と回遊性向上に関する研究
2	佐藤 充 谷口知弘	伊根町	2021年	1,050,000 円 (1,050,000 円)	持続可能なまちづくり調査研究事業
3	山本吉伸	福知山市内企業	2021年	600,000 円 (600,000 円)	産業用ロボットモニタリング技術の検討
4	佐藤 充	宮津市	2021年	360,000 円 (360,000 円)	京都府宮津市における観光関連産業の規模・構造に関する調査研究
5	佐藤 充	夕日ヶ浦観光協会	2021年	136,000 円 (136,000 円)	マーケティング・リサーチに基づく地域ブランディングの構築手法に関する研究
6	渡邊扇之介	福知山市内企業	2021年	114,240 円 (114,240 円)	実装ライン生産計画の最適化
7	渡邊扇之介	福知山市内企業	2021年	321,400 円 (321,400 円)	実装ライン生産計画の最適化(継続)
合計額				2,716,640 円 (2,716,640 円)	

■市民学習部

北近畿創生フューチャーセッション

■担当教員 福知山公立大学 地域経営学部 准教授 杉岡 秀紀

【概要・趣旨】

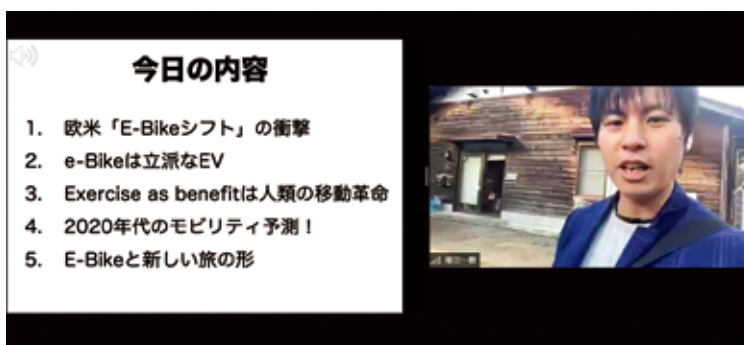
本事業は、圏域やセクターを超え、北近畿地域で共通する課題（テーマ）に関心を持つ者が集い、スピーカーなどからの話題提供により、課題解決のための方策を参加者全員で検討する場所やコミュニティを創造することを目的に、2018年度から実施している事業です。

具体的には、京都府北部連携都市圏形成推進協議会（京都府北部の5市2町から構成される自治体の集まり）との共催事業として毎年度実施し、2021年度は伊根町、福知山市幹事のもと、オンラインで開催しました。

【詳細内容】

(1) 第1回

第1回は2021年11月28日(日)にコロナ禍の影響により、オンライン(Zoom)にて開催しました。テーマは「海の京都における e-Bike ツーリズムの未来」とし、ゲストとして株式会社イミカ代表取締役の原田博一氏と合同会社海の京都 e-Bikes 代表の増田一樹氏にご登壇いただきました。ゲストによる話題提供後は、大学生、京都府北部5市2町の自治体職員、地元住民ら参加者26人が4グループに分かれて未来志向のグループワークフューチャーセッションを行い、最後に全体で共有後、本学の太谷杏准教授（地域経営学部）が講評しました。参加者からは「京都府北部の魅力を実際に体験できるコンテンツが e-Bike だと感じているので、普及できるような取組に協力できればと思う」「様々な立場の方とお話しでき大変勉強になった」「様々な立場から主体性をもって問題点や活用法を考えることができたと思う」「今回の体験で得た新たな視点から今後考えていきたい」といった感想が寄せられ、基調講演の満足度は100%、話題提供の満足度は満足91.7%、やや満足8.3%という結果でした。



2021年度 第1回
北近畿創生
フューチャー
セッション

京都府北部地域連携都市圏生涯学習講座
2021
11.28日
オンライン開催
Zoom
13:00~16:30
本イベントに参加のある方なら誰でも参加いただけます
参加無料 要予約 (定額50人程度)

海の京都における
e-Bike
ツーリズムの未来
with 伊根町

企画幹事：京都府与謝郡伊根町

お申し込み Googleフォームから
メールでのお申し込みも可能です。
お申し込みはshikano@kita-re.jp まで以下を
記載してお送りください。
①氏名 (必須) ②メールアドレス (必須)
③電話番号 (必須)
④性別、年齢、住所、勤務先、学校名等

北近畿創生フューチャーセッションとは
フューチャーセッションとは、新たな課題を解決するため、多様な
価値観を持つ人々が集まり、互いの考えを共有して対話し、交流を深
める場のことです。この「北近畿創生フューチャーセッション」では、
地域やセクターを超え、北近畿地域（京都府北部5市2町）を基盤
で共通する課題に関心を持つ者が集い、北近畿地域のe-Bike
ツーリズムの発展を促すことにより、課題解決のための方策を参加者全員で
検討する場やコミュニティを創出することを目的としています。

当日のプログラムや講師プロフィール等は
裏面をご覧ください

Kita-re
福知山公立大学 北近畿創生推進機構

京都市北部連携都市圏
生涯学習推進機構

(2) 第2回

第2回は2022年2月20日(日)に、オンライン(Zoom)にて開催しました。テーマは「京都府北部から考えるデジタル田園都市の未来」とし、ゲストとして一般社団法人コード・フォー・ジャパンの東健二郎氏と毛原自治会長／毛原の棚田ワンダービレッジプロジェクト 代表／毛原の棚田食品加工所代表の水口一也氏にご登壇いただきました。ゲストによる話題提供後は、大学生、京都府北部5市2町の自治体職員、地元住民ら参加者約32人が3グループに分かれて未来志向のグループワークフューチャーセッションを行い、本学の畠中利治准教授(情報学部)が講評しました。参加者からは「市民と一緒にまちをつくる手段としてデジタルの活用は非常に有効だと感じた」「聴講だけではなく、意見交換の場もあったため緊張感をもって参加することができた」「水口さん等の毛原地区での取組には感心させられた」といった感想が寄せられ、基調講演の満足度は満足75%、やや満足12.5%、話題提供も満足75%、やや満足12.5%という結果でした。



1年間の事業の成果としては、(1) コロナ禍による影響を受けつつも、オンライン(Zoom)を活用し、北近畿地域の自治体と企画段階から協働実施できたこと、(2) 講師・参加者ともに、北近畿内はもとより、オンラインを活用することで北近畿外からも積極的な参加が得られたこと、(3) e-Bikeやデジタル田園都市など今日的なテーマを取り上げられたことの3点が挙げられます。

福知山市若者まちづくり未来ラボ事業

■ 担当教員 福知山公立大学 地域経営学部 准教授 杉岡 秀紀
情報学部 講師 藤井 叙人

- ① 福知山市若者まちづくり未来ラボ実行委員会の発足 ② 福知山わかもの会議
③ ブラリふくちやま&次世代交流ワークショップ ④ 未来ラボ事業プロジェクト支援2021

【概要・趣旨】

本事業は、福知山市にゆかりのある若者が集まり、まちの未来について語り合い、地域に関わる「やってみたいこと」や「私たちにできること」を具体的に考え、活動する場を通して、若者のふるさとへの関心や愛着を醸成し、将来にわたり地域の元気を創出するアクティブな関係人口としての人材を育成することを目的としています。本年度は、福知山わかもの会議（3回）、ブラリふくちやま&次世代交流ワークショップ、未来ラボ事業プロジェクト支援2021及び成果報告会を実施しました。福知山市にゆかりまたは関心のある大学生・高校生を募集して、未来ラボ実行委員会を立ち上げ、ミーティングや交流を通じて、学生主導により企画詳細の検討、広報、開催準備、運営などに取り組んでもらいました。

【詳細内容】

① 福知山市若者まちづくり未来ラボ実行委員会の発足

福知山市にゆかりまたは関心のある大学生・高校生を募集し、福知山市内外から大学生6人、高校生2人の応募がありました。合計8人の大学生・高校生と、福知山公立大学教員、職員、福知山市職員とで未来ラボ実行委員会を立ち上げスタートする運びとなりました。実行委員の大学生・高校生には、2021年6月から2022年3月にかけて、ミーティングや交流を通じて、本事業の企画詳細の検討、広報、開催準備、運営などに取り組んでもらいました。教員や職員はサポート役に徹し、大学生・高校生が企画から開催まで関わることで、将来に役立つ知識やファシリテータースキル、主体的・対話的に行動する力を身につけることができました。

② 福知山わかもの会議

福知山わかもの会議は、8月29日（日）、10月24日（日）、2月27日（日）の3回実施しました。いずれもコロナ対策によりオンライン（Zoom）で実施することとなりました。内容は、趣旨説明、ゲストからの話題提供、グループワーク（ディスカッション）、全体共有、閉会のあいさつ（教員および福知山市職員）という内容で、未来ラボ実行委員会の大学生・高校生が企画から開催までの準備、チラシ配布や宣伝活動などの広報、わかもの会議当日の司会進行、ゲストとのコーディネータ役を務めました。広報活動の一環として、実行委員会の大学生と高校生の3人が、FM丹波の番組「福知山ふるさと季行」に出演し、わかもの会議への意気込みを語ってくれました。

第1回わかもの会議は、「自由に生きる×好きなことをする大切さ」をテーマに、堀代知氏・可奈氏（田舎体験ハウスWぴーす オーナー）をゲストに迎え、講演ならびに話題提供をしていただきました。参加した高校生・大学生・20代の社会人28人（実行委員の高校生・大学生含む）は、堀氏の「好きなこと、人のためになること、得意なことの重なる部分を探してやってみる。これが自分も周りも幸せにする。」といった熱のこもった言葉に、真剣に耳を傾けていました。

第2回わかもの会議は、「楽しむ門に福来る～なんでもできる学生生活のトリセツ～」をテーマに、上野裕也氏（本学卒業生／川西市役所勤務）をゲストに迎え、「好きなこと、興味のあることを結びつけて、“とにかくやってみる”。」「やってみることにしたら、それを最後まで全力で楽しむことが大切。」と、大学時代に取り組んださまざまな活動を紹介していただきました。中学生・高校生・大学生・20代の社会人27人（実行委員の高校生・大学生含む）が参加しました。



第3回わかもの会議は、未来ラボ事業プロジェクト支援の成果報告会と同日に開催し、「楽しいを追求したら社長になった件～学生が起業するまでの道のり～」をテーマに、小玉淳太氏（株式会社 and Hub 代表取締役／福知山公立大学情報学部2回生）をゲストに迎え講演をしていただきました。福知山市内外の高校生・大学生・社会人35人（実行委員の高校生・大学生含む）の参加がありました。

アンケートによると、いずれの回も講演の満足度（満足・やや満足）が100%、グループワークの満足度（満足・やや満足）が100%という結果でした。福知山への思いの変化、若者の可能性への意識の変化といったアンケート項目でも、90%以上がとてもあった・少しあったと回答いただきました。自由記述欄には「いろんな世代（中、高、大、社会人）の考えが聞けるいい機会でした。」「講演を聞いて自分の中で将来に対する考え方が変わりました。」「大学生の方が（グループワークを）スムーズに進めてくださり、話しやすかったです。」「といったコメントが寄せられました。オンライン開催ということで、「オンラインならではの良さがあった。」「離れた場所からでも参加できるので良い方法だと思った。」「という意見があり、福知山市外の大学生や高校生が参加する敷居が下がったことによって、次世代交流ワークショップや未来ラボ事業プロジェクトにつながる幅広いコミュニティの形成ができたと言えます。一方で、「対面で一度お会いしたい気持ちもあります…。」「オンラインだと今後のつながりが作りにくいなと少し感じたので、対面で行う機会があればぜひ参加させていただきたいと思いました。」「との意見もありました。より強いつながりのコミュニティの形成にはやはり対面で、という実行委員の思いが、後述するブラリふくちやま&次世代交流ワークショップにつながりました。

③ブラリふくちやま&次世代交流ワークショップ

福知山市にゆかりまたは関心のある若者が集まり、まちの未来について語り合う街歩き&ワークショップとして、12月12日（日）に実施しました。高校生・大学生22人（実行委員の高校生・大学生含む）の参加があり、前半は、コロナ対策を徹底したうえで、福知山市内の田舎体験ハウス・Wピース（中六人部）や足立音衛門里山ファクトリー（私市）、新町商店街、吹風舎、福知山シネマなどの施設を見学しました。後半は、市民交流プラザふくちやまに場所を移し、現地を巡ったからこそ感じた福知山の魅力や、地域の未来に向けて出来ることなどを話し合いました。本ワークショップも、未来ラボ実行委員会の大学生・高校生が、企画から開催までの準備、チラシ配布や宣伝活動などの広報、当日の進行を務めまし

た。広報活動の一環として、実行委員会の大学生2人が、NHKラジオ「京このごろ」に出演し、ワークショップへの参加を呼び掛けてくれました。

アンケートによると、市内見学およびワークショップともに満足度（満足・やや満足）が100%となっており、福知山への思いの変化、若者の可能性への意識の変化といったアンケート項目でも、100%がとともあった・少しあったと回答いただきました。参加者からは、「普段行けないような場所、見る機会がない場所にいけてよかったです。」「施設見学からワークショップに移る流れがとても良かったです。今日感じて経験したことをワークショップの中で議論することができ、とても有意義な時間を過ごせました。」などの感想が寄せられました。わかもの会議で形成されたコミュニティが、実地の見学や、対面でのワークショップを通して、より強固なものになったと言えます。



（ブラリふくちやま&次世代交流ワークショップの様子）

④未来ラボ事業プロジェクト支援2021

福知山わかもの会議、ブラリふくちやま&次世代交流ワークショップの対話・意見交換を通じて生まれたアイデアを社会実装するべく、「未来ラボ事業プロジェクト支援2021」を公募しました。この事業は、福知山市に関連した活動、地域住民・行政機関等との連携・協働で展開できる取組によって成果が見込まれるものについて、上限10万円の助成及び活動支援を行うものです。

前期募集を6月14日～6月25日に、後期募集を9月17日～11月1日に公募し、前期は前年度に引き続きのプロジェクト2件「学生大集合！ふくちやま同想会」「市内だけじゃない！～旧三町魅力発信プロジェクト～」の応募がありました。後期には、本年度の福知山わかもの会議やブラリふくちやま&次世代交流ワークショップの中で生まれたプロジェクトチームを含む3件「学生・地域の協働による丹波漆発信プロジェクト～丹波漆の未来に向けて～」「アフター大河バトンプロジェクト」「カラフル～高校生がつくる傘で彩られた空～」の応募がありました。事業計画書や収支予算書、名簿の書類選考の後、福知山市、本学による審査委員会で審査し、5件とも採択が決まりました。

成果報告の場として、2月27日（日）に成果報告会をオンラインで実施しました。内容は、開会の挨拶・趣旨説明、4件のプロジェクトの成果報告、未来ラボ実行委員会による活動報告、講評、閉会の挨拶というプログラムで、高校生・大学生・社会人35人（実行委員の高校生・大学生含む）の参加がありました。成果報告については、それぞれのプロジェクトの代表者やメンバーである松井優氏（京都大学法学部）、森下航平氏（京都大学総合人間学部）、安宅珠葵氏（福知山高校）、谷口こころ氏（福知山成美高校）から報告をいただきました。フィールドワークが主なプロジェクト1件は、コロナ感染拡大の影響を受け事業の遂行が厳しく、成果報告を断念する結果となりました。閉会の挨拶では、井口和起 北近畿連携機構長／福知山公立大学学長に、1年間を振り返った総評と参加者へのメッセージをいただきました。また、両丹日日新聞（2022年3月2日付け）に「2021年度 第3回福知山わかもの会議×未来ラボ事業成果報告会」の記事が掲載されました。

以上、1年間の事業成果としては、福知山市若者まちづくり未来ラボ実行委員会を立ち上げ、わかもの主導で本事業の各イベントを企画運営できたこと、福知山わかもの会議やブラリふくちやま＆次世代交流ワークショップにおいて、福知山市や近隣市町においてふるさとへの愛着や関心の高い関係人口を発掘できたこと、対話・意見交換を通じて生まれたアイデアを「未来ラボ事業プロジェクト支援2021」で支援することで社会実現ができたこと、加えて、近隣の中学生や高校生を巻き込むことで中高大連携につながったことが挙げられます。



（ブラリふくちやま＆次世代交流ワークショップの様子）



（未来ラボ実行委員会）

市民学習部

分野別公開講座

■担当教員 福知山公立大学 情報学部 教授 倉本 到

〔概要・趣旨〕

様々な分野に広がる大学の活動とその地域への展開を市民向けに講演することを目的とした分野別公開講座は、年4回の頻度で毎年度開催しています。本年度は「大学と地域の連携」をテーマに、地域経営学部・情報学部および大学附属センターから教員を講師として招き、教育・公共・産業・防災・技術・国際などの様々な分野における大学と地域との連携活動の実践の様子について講演しました。本年度は昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、遠隔での受講が可能なオンライン・ハイブリッドでの講演を積極的に提供しました。

〔詳細内容〕

第1回(5月27日) オンライン開催: 参加者 58人

第1部 ソフトウェア工学研究者が小学生向けプログラミング教室をやってみた
(情報学部 講師 眞鍋雄貴)

福知山公立大学の情報学部では北部地域連携都市圏ものづくり産業都市創造プロジェクトとして多数のプログラムを推進しており、その中で地域の小・中学生の教育に関するプロジェクトも行っています。本講演ではこれらの概要を紹介し、その中で昨年度行った小学生向けプログラミング教室の事例を紹介しました。その後、これらの教育プログラムとソフトウェア開発とのギャップを通して、ソフトウェア工学との関係性について述べました。

第2部 つながりからの地域イノベーション
(地域経営学部 教授 亀井省吾)

地域の活性には「よそもの・わかもの・ばかもの」が大切だとの話をよく耳にされるかと思います。今回は地域のイノベーションについて「つながり」をテーマに、経営学領域で研究されているネットワーク理論の観点から、お話ししました。何か難しい話のように聞こえるかもしれませんが、そもそもイノベーションとはなにか？ また、それを起こすアントレプレナーとはどんな人なのか？ 原点に立ち還って、参加者と話し合いました。

【質問3】第1部の内容はいかがでしたか？(ひと..プログラミング教室をやってみた(情報学部 眞鍋))
29件の回答

● 満足
● やや満足
● 普通
● やや不満
● 不満

【質問4】第2部の内容はいかがでしたか？(ひと..の地域イノベーション(地域経営学部 亀井))
29件の回答

● 満足
● やや満足
● 普通
● やや不満
● 不満



第2回(8月25日) オンライン開催: 参加者 32人**第1部 地域と大学の連携による観光地域づくり**

(地域経営学部 助教 佐藤充)

魅力的な観光地を創出するためには、宿泊事業者や観光協会をはじめとした観光に関わる多様なステークホルダーが、それぞれの利害を超えて、マーケティングや観光コンテンツの開発などに取り組むことが求められています。本講座では、このような観光地域づくりの現場に、大学がどのように貢献することができるのかという点について、具体的な実践事例を通して、参加者にお伝えしました。

**第2部 地域防災～自然との共生～**

(地域防災研究センター センター長 横山泰昭)

福知山市は、過去から由良川の氾濫をはじめとする幾多の洪水災害を経験しており、近年その発生頻度が高くなっています。また、災害発生の都度、そこからの教訓を活かしたハード・ソフトの防災・減災の取り組みが進められてきました。このような状況の中、災害対応の実務経験をもとに、「地域防災」という観点から自然災害に対する向き合い方（意識や行動）について考えるとともに、今春、福知山公立大学に開設された「地域防災研究センター」についても紹介しました。

【質問3】 第1部の内容はいかがでしたか? (ひと...光地域づくり (地域経営学部 佐藤 充 助教))
14 件の回答【質問4】 第2部の内容はいかがでしたか? (ひと...と選択ください) (第2部: 地域防災～自然との共生～ (地域防災研究センター 横山泰昭 センター長))
14 件の回答**第3回(11月24日) ハイブリッド開催: 参加者 28人****第1部 留学生が地域に馴染むには～英語で語る互いの文化～**

(地域経営学部 准教授 Anthony Walsh)

Students from abroad come to Japan to immerse themselves into this unique society. As representatives of their nations, they also have unique qualities to share with their host nation. This presentation focused on the use of English as a medium in exchange programs. Foreign students open the world up for domestic school institutions with their ideas and cultures which are rare in Japan. The programs catered for people from preschool through to higher education. Those that collaborated with peers had the chance to create sustainable learning opportunities by exploring the true nature of celebrating each other's culture. Activities such as international exchange programs have been popular for many years, however, with structure and guidance they can be practical in terms of knowledge which can be used in the future to break the barriers of language and customs.



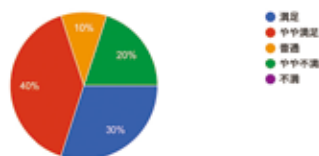
第2部 福知山公立大学の数理・データサイエンスと地域貢献

(情報学部 准教授 畠中利治)

数理・データサイエンス教育の重要性が高まっています。大学教育においては、リテラシーレベルの数理・データサイエンス・AI教育プログラムを対象とした文部科学省による認定制度が始まっており、福知山公立大学は、全学展開している共通教育科目で構成したプログラムでその認定を受けています。講演では、数理とデータサイエンスについて簡単に紹介したのち、本学の数理・データサイエンス教育研究拠点の取り組みを中心に、この分野からの地域貢献への取り組みや今後の方向性について紹介しました。

【質問3】第1部の内容はいかがでしたか？（ひと…地域経営学部 アンソニーウォルシュ 准教授）

10件の回答



【質問4】第2部の内容はいかがでしたか？（ひと…スと地域貢献（情報学部 畠中利治 准教授））

10件の回答



第4回（2022年3月8日）オンライン開催：参加者 32人

第1部 病院を持たない大学が医療情報で地域と連携する？

(地域経営学部 准教授 星雅文)

福知山公立大学には医学部も附属病院ありません。よって診療の情報そのものを扱うことができません。しかし、地域のために大学が提供できる医療情報はあります。どの病院がどのような診療に長けていて、どのような時に頼りになるのかという情報は地域で生活する方々にとって重要でしょう。一般公開されているデータでも組み合わせや角度を変えて分析すると、見えるものがあります。それは地域にとって価値ある情報かもしれません。その一端をご紹介します。医療情報を通じた地域と大学の連携について考えたいと思います。



第2部 公立大で北都の未来はどう変わるのか？

(情報学部 教授 山本吉伸)

みなさんは「10年後の京都北部地域」と聞いてどのような姿を期待しますか？私たち市民が望む未来像を共有し、具体的に行動すれば、それはきっと実現します。福知山公立大学に情報学部が創設されて2年、未来の街づくりに必須の「若い学生たち」と「最先端の情報技術をもった先生たち」が集まりつつあります。この講演では、私たちのゼミの取り組みの紹介を通じて、目指したい「10年後の京都北部地域」の構想をお伝えしたいと思います。

【質問3】第1部の内容はいかがでしたか？（ひと…連携する？（地域経営学部 星 雅文 准教授））
17 件の回答【質問4】第2部の内容はいかがでしたか？（ひと…変わるのか？（情報学部 山本 吉伸 教授））
17 件の回答

まとめ

講演テーマは、教育・公共・観光・防災・国際・技術など多岐にわたる内容で実施し、4回開催で延べ150人の受講者に講演を聞いていただくことができました。参加者数は、プラザふくちやま（福知山駅前の公共施設）に部屋を借りて開催していた時期よりも多く、本事業に類する市民講座に、昨年来広く利用されるようになってきたオンライン会議ツールで参加することが一般化し、加えて、会場が遠くて参加を控えてきた聴講者が気軽に参加できるようになっていることが伺えます。本事業は広く一般の市民の方々に開いた講座であることが期待されることから、コロナ禍の状況であるかどうかにかかわらず、今後も何らかの形でオンラインでの開講を継続することを検討してまいります。

各回とも講演は好評で、遠隔であることによるトラブルやデメリットもほとんど見られませんでした。講演内容の難易度は若干高めに推移していますが、これは情報学部所属教員の講演内容が技術的に難しいものであることが理由として想定されます。しかし、講演そのものの満足度の高さを見る限りにおいて、難しい内容であっても講演者である弊学教員が適切に難易度を調整し、市民の皆様にはわかりやすくなるような工夫を凝らしていることもうかがえます。

今後は、アンケートで収集された講演内容の希望を参考に、大学としての地域連携にこだわって企画してきたここ2年間の学内の教員ばかりが講演者になっていた状況を改め、より広い視野をもって、市民の皆様様の興味関心の満足に資する内容での講演を実施できるように検討してまいります。

■市民学習部

福知山市・丹波市・朝来市連携事業 高大連携研究会

■担当教員 福知山公立大学 地域経営学部 教授 山田 篤

【概要・趣旨】

本事業は、京都府南部および兵庫県南部と比較して教員研修への参加が難しい北部地域の高校教員に対し、研修の機会を共創するというねらいから福知山市・丹波市・朝来市の三市の高校教員と自治体職員を主たる対象として2018年度から実施してきました。最終的には、高大共通の教育課題について高校教員と大学教員とが共に検討し教育実践の改善を図る教育研究プラットフォームの構築を目指しています。今年度は研究会を2回実施し、①高大連携や各回のトピックに詳しいメンバーからの話題提供と②参加者全員による意見交換の二部構成で開催しました。コロナ禍の影響により、2回ともオンラインでの実施となりましたが、物理的な移動を伴わないメリットと、Face to Faceの議論ができないデメリットを痛感する会となりました。

【詳細内容】

【2021年度第1回研究会】

2021年8月27日（金）18時30分から、2021年度第1回高大連携研究会をオンラインで開催し、高校教員・大学教員ほか23人が参加しました。

今回は、全体テーマを「探究学習とICT」とし、三浦隆志氏（授業デザイン研究所代表／元岡山県立林野高校 校長）には「地域探究学習を軸にした学習者の育成～岡山県立林野高等学校の取組～」と題して、奥田幸祐氏（近畿大学附属豊岡高等学校 数学科・情報科 教諭）には「Google Workspaceを活用した探究的な学び」と題して講演いただきました。

グループワークを経た参加者からは「教科での活用事例を知ることができて参考になった」「生徒の行動変容が興味深かった」などの感想が寄せられたほか「探究活動におけるICTの効果は？」「機器の扱いが不得意な教員への対応は？」「学びのコーディネートに必要な視点は？」など、様々な質問がありました。講師のお二人から、さらなる事例やアドバイスを伺い、充実した時間となりました。

最後はコメンテーターとして参加した本学情報学部の倉本到教授より「高校での探究学習は大学のゼミ活動そのものの感がある。今後、新しい探究活動の仕組みを高大連携で実現したい」との講評があり、閉会しました。





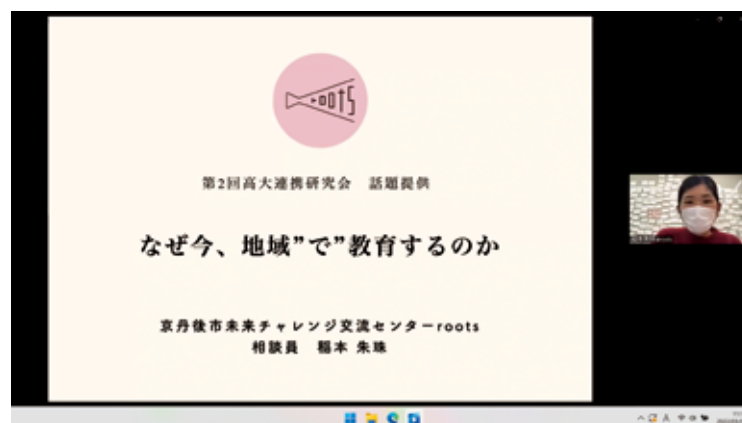
【2021年度第2回研究会】

2022年2月28日（月）18時30分から、2021年度第2回高大連携研究会をオンラインで開催し、高校教員・大学教員ほか24人が参加しました。

今回は、全体テーマを「学校の枠組みを超えた地域との連携による探究活動」とし、稲本朱珠氏（京丹後未来チャレンジ交流センターroots相談員）には「なぜ今、“地域”で教育するのか」と題して、田川裕大氏（一般社団法人BEAU理事兼COO／福井県立丸岡高等学校 地域協働アドバイザー）には「一般社団法人BEAUによる地域作り/教育」について講演いただきました。前者が地域の高校生を対象にしたフェーストゥフェースの活動の場の提供であるのに対し、後者は県内のみならず全国の高校生を対象にしたオンラインの場の提供という、それぞれ特徴のある取り組みの紹介をしていただきました。

グループワークを経た参加者からは、「学校外の探究活動の方向性や目的は？」、「活動資金や期間は？」、「オンラインのみの場合の達成度は？」、「ラボのコーディネート方法は？」など、様々な質問がありました。講師のお二人から、さらなる事例やアドバイスを伺い、充実した時間となりました。また、事後のアンケートでは「高校での学びと地域での学びの両輪が重要」、「高校教育と社会教育の融合に向けた協力体制をどのように構築していくか」などの感想が寄せられました。

最後はコメンテーターとして参加した本学地域経営部の谷口知弘教授より全体講評があり、閉会しました。



■市民学習部

公募型市民学習支援事業

■担当教員 福知山公立大学 地域経営学部 准教授 杉岡 秀紀

〔概要・趣旨〕

本事業は、地域課題に対して大学が持つ知を活用する機会をつくり、北近畿の地域経済・社会の持続的な発展に不可欠な人材を育成することを目的に、地域団体等が企画する実践的かつ創造的な市民学習や学び直しを支援するものです。2021年度は以下の基準で事業の公募を行いました。

(対象となる事業)

- (1) 地域や企業が抱える課題に対して大学が持つ知を活用する機会を創出すること。
- (2) 実践的かつ創造的な学びの場や学び直しの場を創出すること。企業、NPO、地域団体、行政等、多角間での共創が望ましい。
- (3) 企業、NPO、地域団体、行政等連携先が明確であること。既存の協議体などを活用するものでも構わない。
- (4) 本学教員が講師若しくはファシリテーターとなり、レクチャーやワークショップを提供し、参加メンバーによる主体的な取組を促進するものであること。本学以外の講師を招聘することも可とする。
- (5) 事業が2021年度内に完了できること。

〔詳細内容〕

審査の結果、2021年度は「山山アートセンター」と「特定非営利活動法人京都丹波・丹後ネットワーク」が提案する2案を採択しました。

(1) 山山アートセンター

テーマ 「わたしを介護するときに読んでほしい A to Z 講座」

〔地域課題・事業目的〕

本事業の目的は、「アートに軸足を置きつつ“よくよく考えてみると実は福祉”というさりげない場をつくること」を志してきた団体の視点を活かし、ワークショップ型の講座を通じて幅広い層が「高齢者福祉」に楽しく向き合う環境づくりを模索することである。なお、三和町川合地域では廃校活用計画が進んでおり、校舎の一部をアートのスペースとして活用する構想も含んでいるため、アート×福祉の可能性に関心を持つ人同士が当該地域を舞台に新たに出会う機会を創造すべく、会場は廃校を活用し、高齢化する当該地域に根ざして暮らす人々とのクリエイティブな関わりかたを模索していく。

〔事業概要〕

「終活」に関心を持つひとや、高齢者福祉に携わる仕事をするひと、家族や友人知人が高齢化しているすべてのひとを対象に全3回の講座を実施した。内容は、参加者それぞれが自分の個人史や価値観、将来の展望について整理していく「わたしのこと帖」を作成することである。具体的には、各回完結型とし、病院でのリハビリ等にたずさわる作業療法士の古川絵美の視点と美術家のイシワタマリの視点を掛け合わせ、インタビューする／されることを通



じて人生を表現するWSを実施した。コメンテーターは杉岡秀紀市民学習部長が担当した。

〔活動内容〕

- 10月27日：旧川合小学校にて第1回「わたしのこと帖（パイロット版）」ワークショップ実施。美術家、作業療法士、大学教員、地域住民2人が参加。
- 12月5日：旧川合小学校にて第2回「わたしのこと帖（パイロット版）」ワークショップ実施。美術家、作業療法士、大学教員、地域住民7人、福知山公立大学の学生2人が参加。
- 1月22日：オンラインにて第3回「わたしのこと帖（パイロット版）」ワークショップ実施。美術家、作業療法士、大学教員、地域住民3人、福知山公立大学の学生4人が参加。

(2) 特定非営利活動法人京都丹波・丹後ネットワーク

テーマ「まちづくりをテーマにした講演会及びワークショップの開催」

〔地域課題・事業目的〕

福知山の喫緊の課題である環境、高齢者福祉、防災をテーマとし、3回の講演・ワークショップの実施を通して、企業・行政・NPO・地域等それぞれの立場からまちづくりに取り組む意欲のある人たちが地域の諸課題について情報・知識の交換やアイデアの創出を行い、刻々と変化する地域の姿にすなやかに対応できるまちづくりに取り組むための「顔の見える地域コミュニティ」を作り出すことを目的とする。

〔事業概要〕

環境、高齢者福祉、防災の第一線で活躍する講師をゲストに招き、前半はゲスト講師による話題提供、後半は参加者からの質問をもとに会場全体で対話していく場を創造した。各回ともYouTube配信も行い、ハイブリッドで開催した（3回目はまん延防止等措置によりオンラインのみ）。コーディネーターは3回とも杉岡秀紀市民学習部長が担当した。

〔活動内容〕

10月15日

テーマ：「再生可能エネルギーと環境問題」

講師：たんたんエネルギー株式会社代表取締役社長
木原浩貴氏

参加人数：約20人

場所：市民交流プラザふくちやま



12月9日

テーマ：「ごちゃまぜ共生社会実現への挑戦」

講師：社会福祉法人松寿苑理事の田中良樹氏

参加人数：約30人

場所：市民交流プラザふくちやま



1月27日

テーマ：「災害と住まい～災害を乗り越えていくために～」

講師：京都大学防災研究所 牧紀男教授

参加人数：約20人

場所：オンライン (Zoom)



福知山公立大学公開講座 井口学長塾 第Ⅴ期

「福知山と戦争の『記憶』 ～ 福知山の近代史 ～」

■ 2021年11月13日(土)～2022年1月22日(土) (全5回)

■ 福知山公立大学2号館1階「Kita-re」Co-Lab. スペースとZoomによるオンライン併用

■ 第1回 33人、第2回 30人、第3回 27人、第4回 34人、第5回 (延期)

■ 担当教員 井口和起(福知山公立大学 学長)

〔概要・趣旨〕

事業の目的は昨年度と同じで、「未来を切り拓く地域の近現代史をみんなで発見しよう」ですが、本年度は昭和期の戦争の体験や記憶をどのように記録し、語り継いでいくかについて考えることとしました。

具体的には、福知山の人々が体験した「満洲開拓団：天田郷」の建設と引揚について、残されている「満洲開拓団顕彰碑」を手がかりに論じました。

この学習をとおして、歴史上の出来事を「記念碑」で「顕彰」することと、後の人々がそれを「解説」し「語り継ぐこと」と、出来事を「歴史認識」に深め、次世代に伝えていく仕事との大切さと留意点について、参加者が互いに意見を述べあって考えを深めることを目指しました。

〔詳細内容〕

「概要・趣旨」で記したとおりですので、本年度のテーマには—「満洲開拓団」の記憶と記録と語り継ぎ。そして「歴史認識」—というサブタイトルを付けて、各回の内容を次のように掲げました。



①福知山城の「満蒙開拓団記念碑」と「解説板」の特徴—日本における「満蒙開拓団」記念碑の一般的特徴との比較、②記述による「開拓団」(天田に関する「語り継ぎ」—「歴史認識」の出発としての著作：上垣松之助『生還者の証言—満洲天田郷建設史—』の描く「満洲開拓団」—「碑文」と「解説文」の違い、③現代の「満蒙開拓団」に関する「語り継ぎ」と歴史研究—「記憶」から「歴史認識」の深化へ—格段に進んでいる「満蒙開拓団」「日ソ戦争」「引揚」の歴史研究、④もう一つの「引揚」—日本からの朝鮮人帰還と朝鮮からの日本人の帰還—「国境をまたぐ生活圏」—移民史研究の提言—、⑤「記念碑」と「記録」と「語り継ぎ」—歴史家の仕事と語り継ぐ「場」—記念碑・博物館等の施設の課題—、の計5回です。



第1回目にとり上げたのが、左の写真の「満洲開拓団顕彰碑」とその傍らの「解説板」です。福知山城天守閣西側の広場の片隅に建てられています。この顕彰碑(左側)は1956年末に除幕式が行われていますが、碑文は1955年に撰文されています。この撰文者と内容の特徴を、1987年に木板で立てられた「解説板」(右側)の内容とに微妙な違いがあることに注目しました。それは、この32年間の隔たりの中で体験者たちが訪中したことをはじめ、歴史書から新たに学んだことなどが背景になっていることを確認しました。

その経過や成果を踏まえたものが第2回目の記述による「開



拓団」(天田に関する「語り継ぎ」—「歴史認識」の出発としての著作：上垣松之助『生還者の証言—満洲天田郷建設史—』(岡丹日日新聞社、1983年)です。

三岳村の新生を願い天田郷建設に主導的な役割を果たした著者は、この本の中で当時の満洲地域の日本人住民を見棄てた関東軍の対ソ戦略を厳しく批判しています。これは著者が関東軍に関する歴史書から学びとったものでした。また、「顕彰碑文」では1945年8月9日のソ連の旧満州地域への侵攻を「侵略兵の襲撃」と記していたのを、「解説板」では「ソ連の参戦によりこの地も戦場」となると記した背景には、著者をはじめ開拓団帰還者19人が1981年6月に訪中した中で中国の人々はソ連の参戦を「解放軍の参戦」ととらえていることを知り、自分たちの体験や記憶も「世界に視野を広げることの必要性」を痛感したという学びが述べられています。

第3回目は「満蒙開拓団」「日ソ戦争」「引揚」の歴史研究、がどこまで進んできているかを、最新の学術書ともいべき富田武『日ソ戦争 1945年8月—棄てられた兵士と居留民—』(2020年7月、みすず書房)と加藤聖文『海外引揚の研究—忘却された「大日本帝国」』(2020年11月、岩波書店)を中心に井口が紹介し、世界政治の動向の中でから捉えなければ事態の認識は

深まらないことを確認しました。

第4回目は、視点を変えて、引揚げは在日の朝鮮人たちの母国・朝鮮への帰還の問題でもあったことを確認するとともに、日本人の引揚げの歴史認識と現代韓国での引揚げの歴史認識の差異について今泉裕美子・柳沢遊・木村健二編『日本帝国崩壊期「引揚げ」の比較研究』(2016.6. 日本経済評論社)や君島和彦編『近代の日本と朝鮮「された側」からの視座』(2014. 東京堂出版)を参考にしながら学びました。

第5回目は、藤原ていの有名な『流れる星は生きている』(1976. 新版：偕成社文庫、改訂：2020. 第4刷)や、近年韓国と米国の間で議論が起こった『竹林はるか遠く』(2013年、ハート出版)などの文学で語られる引揚げ体験から、「集団的記憶」として建てられる記念碑・顕彰碑、そして記念館や博物館・資料館等で伝えられる体験や記憶の「語り継ぎ」と歴史認識との関係を考えながら、最終的には今、私たちは何をどう語り継ぐべきかをみんなで意見交換しようと考えていますが、これはコロナ禍が収まってからの開催予定に日程変更し、現在延期中です。本年度の特徴は、オンライン参加も可能としたことと、テーマが「満洲開拓団」「引揚げ」を掲げたことなどからでしょうか、秋田県や東京都在住の方の参加もあったことです。体験者のご親族で友人からの知らせで参加したという方々でした。また、舞鶴の引揚げ記念館で「語り部」活動をされている方々のご参加や兵庫県の高校生の方のご参加もありました。

毎回、出来るだけ詳しいレジメ・資料を参加者に提供し、後日に確かめていただけるように努めました。が、時間配分が拙くて最後まで話が進まなかったこともしばしばで反省しています。

私の学長職は本年度限りですので、この事業は今回で終わりました。



■ 市民学習部

福知山公立大学2021 地域活性化策コンテスト田舎力甲子園

主催：福知山公立大学「田舎力甲子園」実行委員会

(委員長 井口和起学長、副委員長 杉岡秀紀地域経営学部准教授・藤井叙人情報学部講師)

後援：内閣府地方創生推進事務局・京都府・福知山市

【概要・趣旨】

本学の位置する北近畿エリアをはじめ、日本全国の地方都市・農山漁村は何処も少子高齢化や地域経済の活力低下という問題に直面していますが、これら諸課題に対する解決策の一つとして「田舎の持つ内発的発展力」が注目されています。そこで「田舎力甲子園」と題して全国の高校生から地域活性化策のアイデアを募集し、優秀策を表彰することによって、広く啓発・普及を行いました。

なお、例年は夏のオープンキャンパス時に表彰式を開催していましたが、コロナ禍のため昨年度に続き冬開催としました。また、今回は応募形式を「動画」に変更し、学内実行委員が選定した計11策のファイナリストがオンライン上で最終プレゼンテーションを行い、外部審査委員も含めた最終審査を経て「最優秀賞1策・優秀賞3策・奨励賞2策」を表彰しました。

【詳細内容】

募集開始：2021年6月24日（木）

応募メ切：2021年10月29日（金）

応募策数：73（個人 16 +グループ57）

ファイナリスト発表：2021年11月15日（月）（以下11策）



高校名	研究課題名
北海道奥尻高等学校	奥尻の魅力を全国へ！
静岡県立川根高等学校	持ち運び型個人シェルターの開発 ～自閉症の方が安心して暮らせる避難所を目指して～
京都府立福知山高等学校	“3F” プロジェクト Fukuchiyama First Food bank
大阪市立水都国際高等学校	“Gyutto” Jam Project
兵庫県立柏原高等学校	丹波三宝（小豆・黒豆・栗）をすべて盛り込んだスイーツを食べたいと熱望していた高校生たちが試作品を作り続けたら和菓子職人と、外国人シェフを巻き込みだして地域活性化に向けて動き出した件
奈良県立商業高等学校 奈良県立奈良情報商業高等学校	「古代の市の復活」から「生理の貧困」まで ～同時に解決する商業高校の CSV 経営～
岡山県立玉島商業高等学校	捨てられるものの有効活用 新たな地域活性化

岡山県立倉敷鷺羽高等学校	ニッポンの「田舎」を元気にしたい！「地方」と「地方」を高校生がマッチング！！
鳥取城北高等学校	アートの力で鳥取のまちを明るくするプロジェクト
宮崎県立都城商業高等学校	DIGITALDETOXCAMP ～最高の ON のために最高の OFF を～
鹿児島県立大島高等学校	奄美大島の食材をインスタ映えさせたい！

最終プレゼンテーション：2021年12月11日（土）13～16時

最終プレゼンテーション外部審査委員：7人（敬称略）

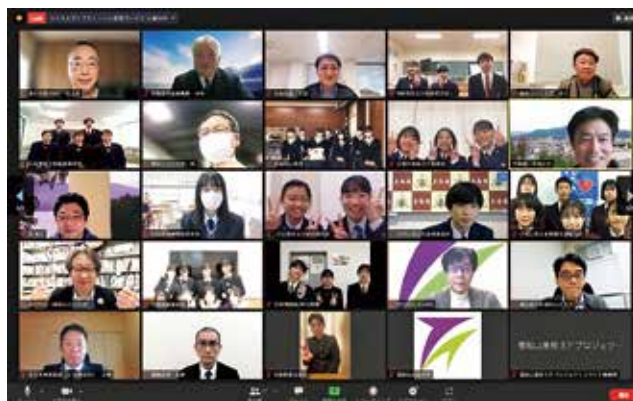
氏名	所属・役職
桑原 教彰	京都工芸繊維大学工芸科学研究科教授／工芸科学部副学部長・地域創生 Tech Program 長
宮垣 健生	但馬信用金庫 常務理事・総合企画部長
足立 渉	京都北都信用金庫 常務理事
立野 照司	西日本旅客鉄道株式会社福知山支社 地域連携推進室長
村上 章	一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社（海の京都DMO）取締役・総合企画局長
中本 晴夫	京都府丹後広域振興局 局長
加登 文学	独立行政法人国立高等専門学校機構 舞鶴工業高等専門学校建設システム工学科教授

【最終審査結果】

最優秀賞（1校）：奈良県立商業高等学校・奈良県立奈良情報商業高等学校

優秀賞（3校）：北海道奥尻高等学校、岡山県立倉敷鷺羽高等学校、宮崎県立都城商業高等学校

奨励賞（2校）：兵庫県立柏原高等学校、鳥取城北高等学校



■ まちかどキャンパス部

まちかどギャラリー事業

■担当教員 福知山公立大学 地域経営学部 助教 張 明軍
 情報学部 教授 池野 英利

【概要・趣旨】

本事業は京都府北部で活躍するアーティストや民間文化団体を招き、福知山公立大学まちかどキャンパス「吹風舎」に大学と地域の交流の場を設けることを目的としています。アーティストや文化団体・教職員・学生・地域の方々を巻き込んだ企画を提案・実行し、様々な視点からの意見や価値観を共有することで、吹風舎が成長の場となることを目指します。

【詳細内容】

コロナの影響が続く中、昨年度の実施経験を踏まえ、本事業の継続を目指して、個別のアーティストの展覧会開催に加え、福知山市文化協会との連携を実現できました。福知山市文化協会は各種文化団体の活動と市民の皆様との交流、並びに市全体の文化力の質的向上と充実発展に尽力し、文化活動を通じて地域文化の発展・向上を図るとともに市民相互の交流拡大に寄与するため、文化振興事業の企画運営及び施設管理事業等を行っている団体です。本事業の方針と一致する部分が多く、この連携は事業の継続及び発展に大きく貢献することが期待できます。

今年度、連携の第一弾として、福知山市文化協会の所属団体である「絵を楽しむ会」の水墨画部（芦田哲司代表）のご協力を頂きました。「絵を楽しむ会」は約50年にわたり、中丹地域を中心に活動し、市民交流プラザやグンゼ博物苑、丹波生活衣館などにおいて作品展を催してきています。今回は同会の三つの作品を、吹風舎に展示しました（写真1）。

芦田代表のご説明によると、水墨画は墨と水の調和で描かれた絵画で、墨一個で描くので遠近感と構図、そして紙の白を生かすことが大事だそうです。この三つの作品は主に京都府北部の自然人文景観を描いています（写真2）。本展示はまん延防止等重点措置に対応しながら、本年度3月末までとしており、今後動物などをテーマとする作品の展示も予定しています。



写真1 「絵を楽しむ会」の作品展示の様子

今後の本事業の展開としては、引き続き福知山市文化協会との連携を強化し、協会に所属するより多くの団体のご協力を得ることを目指します。そして、連携による展示、企画などの実施を通じて、本学学生との交流を深め、学生と市民との連携強化を図っていきたいと考えています。



田植えを終えた水面に映る高架



雪深い山間のため池につながる小川



雪解けの道に映る夕映え

写真2 展示の水墨画作品

まちライブラリー事業

■担当教員 福知山公立大学 地域経営学部 准教授 大谷 杏

〔概要・趣旨〕

本事業は、これまで植本祭などのイベントを通して、地域住民の方々と学生、地域住民の方々同士、また学生同士の交流を促進することを目的に活動してきましたが、本年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響により、対面でのイベント開催は叶いませんでした。そこで、本学学生、教職員を対象とした「あなたのふるさとの写真大募集～とっておきの1枚を吹風舎のライブラリーとギャラリーに～」という写真募集企画を実施し、作品を募りました。応募作品を集めたフォトブックを作成し、まちライブラリーに設置するほか、今後、まちかどギャラリーや出身地にちなんだイベント開催などに繋げていきたいと考えています。

〔詳細内容〕

昨年度までの活動から、オンラインイベント開催には、著作権に係る書籍等使用許可の確認という大きな課題が立ちのぼることがわかりました。そのため、今年度は著作権になるべく触れずに、コロナ対応として外部の方々や部会以外の教職員との接触を極力控えつつ、地域に貢献できる取組を模索していくことになりました。

様々な企画を考えた末、「あなたのふるさとの写真大募集～とっておきの1枚を吹風舎のライブラリーとギャラリーに～」の募集に至りました。本学の学生や教職員それぞれが自分の故郷を写した写真を応募アドレスに送った後、Googleフォーム上で、撮影者名、本名公表を希望しない場合のニックネーム、大学のメールアドレス、撮影場所、撮影年・月、紹介文（任意）などの必要事項を打ち込む方式を採りました。Googleフォームでも写真添付の方法は可能でしたが、その場合、大学のアドレスにログインした状態でないと送れないため、スマートフォンからの応募が可能なメールとGoogleフォームの併用にしました。

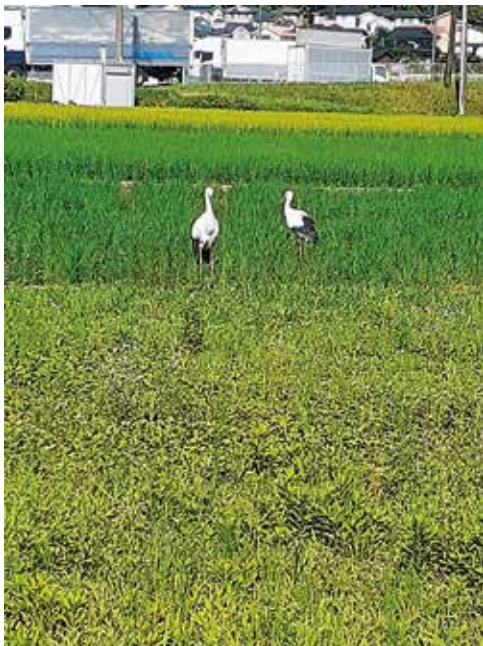
募集期間は、2021年12月中旬～2022年2月8日、応募資格は本学の学生、教職員で、応募枚数上限は150枚です。応募できる写真は、外部の写真コンクールなどを参考に、以下のとおりとしました。

- ①本学の学生または教職員が故郷でスマートフォンにより撮影した写真
- ②特定できる人物、民家等が入らないもの
- ③編集や加工していないもの
- ④特定の事物の宣伝になるような対象が入らないもの
- ⑤今後の吹風舎の活動での使用（集めた写真をフォトブックにし、まちライブラリーに設置、まちかどギャラリーでの展示、オンラインや対面イベントでの使用、吹風舎のインスタグラム・フェイスブック上での公開）について応募者本人が了解済みであるもの（必要があれば、ご自分でコピーライトを付した写真を提出）

また、応募者には特典として学生食堂のジョージアの販売機で利用できるドリンク券1枚（100～150円相当）をプレゼントしています。ドリンク券にはデジタルクーポン作成ページから作成したURLから取得できるものを使用し、学食職員さんの前で応募者自ら「利用する」ボタンを押すことでドリンクを得られる非接触の仕組みを作りました。

ふるさとの写真応募に関しては、チラシの作成だけでなく、WebClassを通じて学内に周知するとともに、まちかどキャンパス部の教員が受け持つ授業やゼミなどで積極的な広報活動を行い、最終的に21人から応募をいただきました。

集まった写真は、それぞれの応募者から受け取った情報を書き込んだ後、インターネット注文のフォトブックにまとめ、まちライブラリーに設置する予定です。立山町、宇治田原町、掛川市、釧路市、三次市、京都市、飛騨市、木津川市、南丹市、臼杵市、宮津市、西尾市、掛川市、養父市、横浜市の方から写真の応募がありました。



■ まちかどキャンパス部

まちびとゼミ×ふくちゼミ

■担当教員	福知山公立大学	地域経営学部	教授	谷口 知弘
	福知山公立大学	情報学部	准教授	渡邊 扇之介
	福知山公立大学	地域経営学部	准教授	大谷 杏

【概要・趣旨】

市民を講師に学びと交流の場をつくる「まちびとゼミ」。今年は、福知山市が主催する「ふくちゼミ」と連携して実施しました。「ふくちゼミ」で取り組む「広報」、「移住」、「料理」の3つのプロジェクトを紹介し、それぞれの分野で活躍する福知山の達人をお招きして、お仕事や夢を語っていただきました。コロナ禍のため、昨年に引き続きまちかどキャンパス吹風舎をスタジオにオンラインで開催し、初の試みとしてYouTube Liveで配信しました。

「ふくちゼミ」は、福知山の高校生・大学生が、地域社会の問題解決に取り組む学びと実践のプロジェクトです。シビックプライドを育むとともに、主体的に行動できる人材育成を目的としています。まちかどキャンパス部は事業企画から福知山市と協働し、主に学生スタッフによるプロジェクト活動の支援と「料理」をテーマにしたプロジェクトを担当しました。

【詳細内容】

① まちびとゼミ (コーディネーター 福知山公立大学 教授 谷口知弘)

第1回 まちびとゼミ vol.1 広報

(オンライン開催、186回視聴、2022.2.10時点)

テーマ 平均的地方都市が広報全国1位を目指す理由
～全国広報コンクール総務大臣賞をダブル受賞！
福知山市役所の挑戦

日時 2021年11月18日 (木) 19:00-20:00

講師 福知山市 秘書広報課 宇都宮萌さん、吉良恭蔵さん



「広報ふくちやま」の制作意図やプロセス、コロナ禍のピンチをチャンスに変えた「本能寺の変プロジェクト (令和のハガキ一枚運動)」などについて熱く語っていただきました。また、ご担当のふくちゼミ「『広報ふくちやま』を作成しようプロジェクト」をご紹介いただきました。

第2回 まちびとゼミ vol.2 移住

(オンライン開催、156回視聴、2022.2.10時点)

テーマ 移住者が地域を変える～新たな事業を生み出す移住者ネットワーク

日時 2021年12月16日 (木) 19:00～20:00

講師 中丹農業女子のら×たん ゆらジェンヌ、小林ふあーむ
小林加奈子さん／86farm 岩切康子さん／和草 芦田泰子さん

ふくちゼミ「移住者発掘プロジェクト」：福知山公立大学1年生 岡田唯花さん

福知山市 地域振興部 まちづくり推進課 移住定住促進係 市田恵美さん、田倉祐夏さん



福知山や綾部に移住し農業にチャレンジする女性たちがゆるやかに繋がる「中丹農業女子のら×たんゆらジェヌ。」の3人にお越しいただきました。それぞれに異なる移住の経緯や新しい農業、働き方、暮らし方、生き方のお話を伺いました。加えて、大学生や高校生と取り組む「ふくちゼミ”移住者発掘プロジェクト”」について、プロジェクトメンバーの大学生とご担当の福知山市の移住定住促進係からご紹介いただきました。

第3回 まちびとゼミ vol.3料理

(オンライン開催、120回視聴,2022.2.10時点)

テーマ 料理で人を育てる。人生を豊かにする。
～教育と料理「きほんのき」

日時 2022年1月21日(金) 19:00-20:00
(オンライン開催, 186回視聴,2022.2.10時)

講師 福知山淑徳高等学校 杉本昌之先生
ふくちゼミ「わかもの食プロジェクト」:
福知山公立大学2年生 久保心楽さん



「うまいもん甲子園」で3度優勝するなど、福知山淑徳高校を料理コンテストの常勝校に育て上げた教育者にして料理人の杉本昌之先生を講師に、料理や教育のお話をお聞きました。実演を交えて料理の基本も伝授いただきました。加えて、福知山公立大学の学生からは、福知山淑徳高校の高校生と大学生が一つのチームで取り組んだふくちゼミ「わかもの食プロジェクト」をご紹介しました。

②ふくちゼミ(主催:福知山市、協力:福知山公立大学まちかどキャンパス部)

「ふくちゼミ」の4つのプロジェクトの一つ「『若者×地域』フューチャーデザインプロジェクト」を担当、まちかどキャンパス吹風舎を活動拠点にして取り組みました。また、学生スタッフは、福知山市役所と協働してプロジェクト推進に必要なスキルを学ぶ情報リテラシー講座や成果報告会の企画・運営支援、各プロジェクトの活動を支援しました。

1) 「若者×地域」フューチャーデザインプロジェクト

(担当:地域経営学部教授 谷口知弘)

「大学生の食を改善」をテーマに「わかもの食プロジェクト」に取り組みました。福知山公立大学生4人、福知山淑徳高等学校で調理を学ぶ高校生5人でチームを結成し、それぞれの得意を活かしてレシピ開発とSNSを活用したレシピの動画配信を行いました。



2) 学生スタッフの活動

(担当:情報学部准教授 渡邊扇之介、地域経営学部准教授 大谷杏)

今年度、まちかどキャンパス部に7人の「学生スタッフ」が加わりました。まちかどキャンパス部の事業支援の一つとして「ふくちゼミ」の活動支援では大車輪の活躍でした。特に情報学部の学生スタッフはITスキルを活かして、コロナ禍のオンラインによる活動を支えました。



2021 年度 福知山公立大学 北近畿地域連携機構

年次報告書

2022 年 3 月 発行

発 行 福知山公立大学 北近畿地域連携機構
〒620-0886 京都府福知山市字堀3370
福知山公立大学2号館1階
TEL：0773-24-7151 FAX：0773-24-7152
E-mail：kita-re@fukuchiyama.ac.jp
印刷所 株式会社 北星社





 福知山公立大学

Kita-re
北近畿地域連携機構

〒620-0886 京都府福知山市字堀 3370

TEL 0773-24-7151 FAX 0773-24-7152 Mail kita-re@fukuchiyama.ac.jp

<https://www.fukuchiyama.ac.jp>